

<全体分析>

試験時間 90 分

解答形式

空欄補充・選択・記述・論述・計算

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)

難易 (易化・やや易化・変化なし・**やや難化**・難化)

設問数と論述解答量はわずかに増加した程度であるが、考察を要するため解答に時間がかかる設問が多く、全体としてやや難化した。

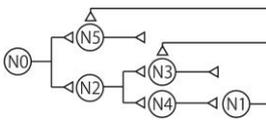
出題の特徴や昨年との変更点

昨年より選択形式の問題が増加した。

その他トピックス

生物問題IV問3は、今年度「プライムステージ」大問1問6とズバリ！的中。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	空欄補充 選択 記述 論述	遺伝子 発生	生物	問2 伝令RNA上のコドンと転移RNA上のアンチコドンでは、5'末端と3'末端の方向が逆になることに注意する。 問4 「ピリチアミンはチアミンと類似した化学構造をもつ」ことから、TPPと同様にピリチアミンニリン酸もステムループに結合すると考える。	やや難
II	空欄補充 選択 論述	神経	生物	問5 図2のうち、シナプス間隙の神経伝達物質の量が5000個以上になる時間が最短であり、かつ素早く増加するグラフは(あ)であることに着目する。 問7  という回路を形成する。	やや難
III	選択 論述 計算	個体群 種間関係	生物	問11 「変異タイプの繁殖戦略」という表現から、変異タイプの「自身は鳴かない」という特徴と「オスの鳴き声に集まる」という特徴が、変異タイプにとって生存と繁殖に有利であるとして考える。	やや難
IV	空欄補充 選択 論述	ホルモン 呼吸	生物 基礎 ・ 生物	問3 タンパク質Aを介してH <sup>+</sup> がマトリックスに流入すると、H <sup>+</sup> 濃度勾配がもつエネルギーがATPの化学エネルギーに変換されず、熱エネルギーに変換される。	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

様々な分野から出題されるので、全分野についてもめれなく学習しておこう。また、文章読解力を高め、実験考察型の問題を論理的に解析する能力を養い、論述のポイントを見抜く力を高める必要がある。問題の分量が多いので、問題文からポイントを見つけて論述解答を手早くまとめるための演習を積んでおこう。遺伝子を扱った問題や遺伝計算が含まれる問題は特徴的であり、かつ出題頻度が高いので、過去問で練習するのがよい。生態と進化は両方とも出題される頻度が高いので、注意しよう。